

NICU を退院した発達障害児に 対する老齢障害者との統合療育構想

—療育センター病院構想—

(分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅ケアシステムに関する研究)

研究協力者 長 島 忠 昭

要 約：NICUより退院の中枢神経系発達障害児に内在する発達可塑能力を限りなく引出そうとする療育センターの機能を発揮させるべく「療育センター病院」の建設計画は、初年度に於ける地元の協力による土地の獲得に、次年度の構想図の熟成を廻っての討論を経て、本年度はいよいよ建設を目前にして、構想の一切が果たして本当に障害克服のための努力に集中されているだろうか、幾多の修正を重ね、さまざまなアイデアの集積を試み、最終的に、「発達障害児と老齢障害児との統合療育病棟」の医学的適合性及び、「最重度脳障害児療育病棟」に於ける新しい医療開拓の責任を見出そうとしている。

見出し語：重度発達障害、発達療育、統合療育、社会福祉、老齢障害

研究方法：

1. 療育センター病院は徹底的に明るくなければならない。

何よりも障害児自らが障害克服への発達可塑性を高めようとするには、周囲が常に生き生きと意欲に満ちた環境を用意してあげることが肝要で、それには病院自体が可能な限りの採光への配慮と、緑に囲まれた風通う空間を巧みに取入れる工夫が何よりのことで、遠くから望むだけで心が弾み、近づくや病院は玄関前から美しく明るい遊園地が広がっていて、そのまま児らを微笑みとともに院内へ招き入れようというもので、その流れに乗って

光り豊かな高さを誇る待合ロビーの正面には、いつでも緑を絶やさない中庭の光景が展開しており、更に歩を進めるならば、壁面画廊や創作広場を横目にしつつ、やがて玻璃透いて現れる庭樹の梢が表情豊かに空との対話を楽しむ「展開回廊」や、「庭山樹木の築山わたり」「風と光の散歩道」へとつながって、恰も院内そのものが遊園地と化したかの様な風情に醸し出されるのである。

2. 発達療育センターシステム

その明るさに育てられた障害児らが、とにかく朝から晩まで仲間とともにまこと愉快に心を湧かすのが脳の発達を促すことに成ること

で療育センターの任務はまこと重要であり、
といって療育担当者がやたら肩に力を入れて
いては心からの愉快さは望めない。

3. 本来の目的である発達可塑性を促すための

院内業務改善の工夫

① とにかく論議の対象となる病院給食を
「二食」にして、朝と晩にクッキーや果物など
のティータイムを設け、これを「落の芽学園」
から派遣される児らが担当し、高齢者の多い
病室を廻って多勢との会話が大切。② 庭一面
に紅い木の実の樹を植えて招いた小鳥たちと
給餌台での対話。③ 屋上盆栽植物園での老幼
の触れ合い。④ 2回制の給食により生まれた
ゆったりとした昼休み時間に老幼合同の劇あ
そびの発表練習風景。⑤ 展望温水プール、築
山あそび、屋上レストラン、スポーツガーデン
など。

4. 「老幼統合療育病棟」

迫り来る老人社会の中にあって障害児の発
達療育を志すには、高齢障害者らとの愉快的
統合療育を現実化しなければならない。むし
ろ高齢者の中には、発達療育に手を藉すこと
で何よりの自負心が生まれ、その保存能力の
活性化が期待される面があることに注目したい。

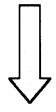
5. 「落の芽学園」の併設

こうして成長発達を見る児らのため、早く

より社会参加への道筋を立ててあげなければ
ならない。生涯療育の場としての「落の芽学
園」では、園生らに社会へ踏み出す準備として
の小経験を各種の院内業務に参加する形で積
み重ねさせてゆくもので、ここには決して押
しつけはなく、自発的に仲間たちと力を合わ
せ歌声さながら毎日を楽しむのである。

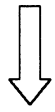
6. 最重度脳障害児療育及び訪問療育

最も重い障害児が此の世に生れ現れたとい
うことは、それだけ生命に力があつたからな
ので、決してダメな存在だなどとは見てはなら
ず、むしろ、さまざまな障害を乗り越えて「傷
つきながらも生き抜いて来た英雄」とも見る
べきで、当然発達可塑性への期待もかけられ
るわけである。一方、一部の研究者からは、生
命の維持が優先される障害児を「超重症児」と
して別個に扱うべきだとの提案がなされてい
るが、それは、或いは手の施しようがないと言
うことで本来の療育対象から一方横に置こう
とするのではないかと誤解を招くこともあり、
私どもとしては賛同出来ない。此の場合、
私どもは、その救い出された生命の光をいさ
さかでもより輝かすべく、「雨だれが岩をも穿
つ」と言った血の滲む反復療育努力や工夫に
こそ日夜取り組もうと決心しているのであ
る。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:NICU より退院の中枢神経系発達障害児に内在する発達可塑能力を限りなく引出そうとする療育センターの機能を発揮させるべく「療育センター病院」の建設計画は、初年度に於ける地元の協力による土地の獲得に、次年度の構想図の熟成を廻っての討論を経て、本年度はいよいよ建設を目前にして、構想の一切が果たして本当に障害克服のための努力に集中されているだろうかと幾多の修正を重ね、さまざまなアイデアの集積を試み、最終的に、「発達障害児と高齢障害児との統合療育病棟」の医学的適合性及び、「最重度脳障害児療育病棟」に於ける新しい医療開拓の責任を見出そうとしている。